

守られた藤ノ木古墳と消えた御坊山古墳

奈良県斑鳩町立斑鳩中学校 森口 洋一

学校の近くにある藤ノ木古墳と、今は跡形もなく消えてしまった御坊山古墳を対比させ、遺跡保存の大切さを考えさせてみたい。

1. 授業の流れ

〈〉→教師の問い 『』→説明 ・→生徒発言

〈地図帳に載っている古墳をあげよう〉

- ・高松塚古墳 ・石舞台古墳
- ・唐古・鍵遺跡 ・藤ノ木古墳

〈なぜこれらの古墳が地図帳に取り上げられているのか〉

- ・高松塚古墳→貴重な壁画が残っていたから
- ・石舞台古墳→蘇我馬子の墓ともいわれ、巨大な石でできた石室が有名なので。
- ・唐古・鍵遺跡→日本有数の弥生時代の大規模な遺跡だから。

〈では藤ノ木古墳が載っているのはなぜ？〉

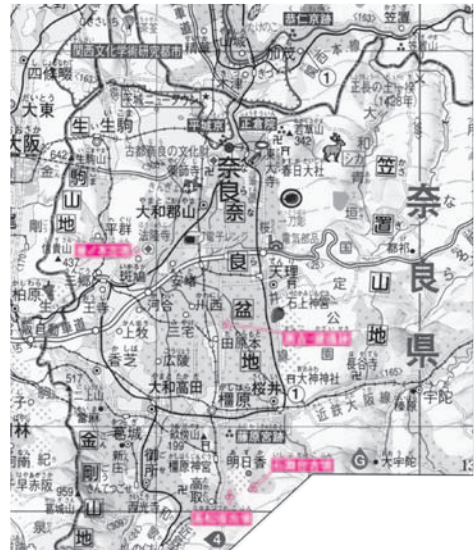
・古いから ・有名な人の墓だから
・古墳の中から珍しいものが見つかったから
『正解は未盗掘の古墳で、金銅製の馬具など豪華な副葬品が見つかったから。埋葬されていたのは男性二人で、誰なのかは謎だ』
(斑鳩地方を流れる大和川の水運が、古代の大和と河内を結ぶ重要な役割を果たしていたことも、地図帳により確認させたい)

〈日本の古墳はほとんどが、盗掘されているのに、なぜ藤ノ木古墳は盗掘にあわなかったのだろうか？〉

『古墳の前に宝積寺があり、それが古墳を守ってきたことが、最近の発掘調査でわかった』

〈町内にある藤ノ木古墳以外の古墳をあげよう〉

- ・調子丸古墳 ・駒塚古墳 ・瓦塚古墳



『中学校社会科地図 初訂版』p.86

『中学校の南側にある錦ヶ丘団地は、昔は御坊山という山だった。実はそこから古墳が見つかった。団地の中のどこにあるんだろう？』
(手を挙げさせるが、見た生徒はいない)

『実は1964～65年の団地造成の際に、御坊山の古墳は破壊されてしまった。』

(「えっ」という反応)

『人骨とともに珍しい瑪瑙製の枕が見つかり、聖徳太子の一族の墓ではないかともいわれている。もし藤ノ木古墳が御坊山の中につくられていたら、御坊山古墳と同じ運命をたどったかもしれないね。遺跡保存の大切さが認められるようになったのは、1972年の高松塚古墳の壁画発見以降で、1960年代だと古墳が破壊されるのも珍しいことではなかったんだ』

このように「残った古墳」と「消えた古墳」を対比させる。どのようにすれば残せるのかを考えさせてもよい。